

6.2 生息基盤の改変量

当該地域では、ミヤマシジミ（環境省 RL：絶滅危惧種ⅠB類、長野県 RL：絶滅危惧Ⅱ類）とオオムラサキ（環境省 RL：準絶滅危惧、長野県 RL：留意種）に関して、保全・保護活動が盛んである。また、現地確認された動物種は「樹林地、農耕地、河川、市街地・集落」などの環境を生息基盤とし、現地確認された重要な動物もこれらのいずれ又は複数の環境を主な生息基盤とする。

このことから、保全・保護活動が盛んである「ミヤマシジミ、オオムラサキ」の2種については食草の生育数量を中心に、他の重要な動物については主な生息基盤の占有面積を中心に計画道路等による改変量の程度を把握した。把握にあたっては、長野県環境影響評価技術指針マニュアル（平成28年10月、長野県環境部）の主旨に準拠した形で整理を行った。

6.2.1 ミヤマシジミの生息状況 ~~（全線）~~

1) 事業実施区域及びその周辺のミヤマシジミの生息状況（全線）

事業実施区域及びその周辺のミヤマシジミの生息状況等は、表 6.2-1 ~~（P6.2-3）~~ に示す。ミヤマシジミは調査地域内で61箇所160個体を現地確認した。このうち、計画道路等の通過又は直接改変が予定される箇所（事業実施区域内）は2箇所2個体である。事業実施区域の確認地点は、いずれも計画道路が橋梁形式で通過し、確認地点の立地（環境）が直接改変されない場所である。当該種の幼虫の主な食草であるコマツナギの群生点は、事業実施区域内で確認されていない。なお、「保護・保全研究活動の場」は計画路線区域から130m程度離れており、当該地の直接改変はない。

表 6.2-1 事業実施区域及びその周辺のミヤマシジミの生息状況（全線）

注目すべき種の生息地		調査地域			事業実施区域		
		現況	工事実施後	改変率	現況	工事実施後	改変率
種	ミヤマシジミ	61箇所	61箇所	0%	2箇所	2箇所	0%
		160個体	160個体	0%	2個体	2個体	0%
食草	コマツナギ (群生点)	60箇所	60箇所	0%	0箇所	-	-
		3426株	3426株	0%	0株	-	-

注：事業実施区域のミヤマシジミの確認地点（2箇所 大沢川渡河部及び三峰川渡河部左岸）は、計画道路が橋梁形式で通過し、確認地点の立地（環境）が直接改変されない。

2) A地区のミヤマシジミの生息状況(天竜川渡河部左岸)

事業実施区域及びその周辺のミヤマシジミの生息状況等のうち、計画道路が天竜川を渡河する箇所~~の左岸~~幼虫の食草のコマツナギが比較的多く生育するA地区の情報を抽出して整理した。整理した結果を表 6.2-2(P6.2-4)に示す。ミヤマシジミは調査地域内調査地区内で~~2箇所3個体~~3箇所4個体を現地確認した。~~このうち、計画道路等の通過又は直接改変が予定される箇所(事業実施区域内)は確認されなかった。~~いずれの確認地点も事業実施区域外の場所に位置し、計画道路等による直接改変が予定される場所でない。当該種の幼虫の主な食草であるコマツナギの群生点は、事業実施区域内で確認されていない。

表 6.2-2A地区のミヤマシジミの生息状況

注目すべき種の生息地		調査地域			事業実施区域		
		現況	工事实施後	改変率	現況	工事实施後	改変率
種	ミヤマシジミ	23箇所	23箇所	0%	0箇所	-	-
		34個体	34個体	0%	0個体	-	-
食草	コマツナギ (群生点)	718箇所	718箇所	0%	0箇所	-	-
		341564株	341564株	0%	0株	-	-

3) B地区のミヤマシジミの生息状況(三峰川渡河部左岸)

事業実施区域及びその周辺のミヤマシジミの生息状況等のうち、計画道路が三峰川を渡河する箇所~~の左岸~~幼虫の食草のコマツナギが比較的多く生育するB地区の情報を抽出して整理した。整理した結果を表 6.2-3(P6.2-4)に示す。ミヤマシジミは調査地域内調査地区内で33箇所33個体を現地確認した。このうち、計画道路等の通過又は直接改変が予定される箇所(事業実施区域内)は1箇所1個体である。事業実施区域の確認地点は、~~いずれも~~計画道路が橋梁形式で通過し、確認地点の立地(環境)が直接改変されない場所である。当該種の幼虫の主な食草であるコマツナギの群生点は、事業実施区域内で確認されていない。

表 6.2-3B地区のミヤマシジミの生息状況

注目すべき種の生息地		調査地域			事業実施区域		
		現況	工事实施後	改変率	現況	工事实施後	改変率
種	ミヤマシジミ	16箇所	16箇所	0%	1箇所	1箇所	0%
		33個体	33個体	0%	1個体	1個体	0%
食草	コマツナギ (群生点)	10箇所	10箇所	0%	0箇所	-	-
		375株	375株	0%	0株	-	-

注：事業実施区域のミヤマシジミの確認地点(1箇所)は、計画道路が橋梁形式で通過し、確認地点の立地(環境)が直接改変されない。

6.2.2 オオムラサキの生息状況(全線)

1) 事業実施区域及びその周辺のおオムラサキの生息状況(全線)

事業実施区域及びその周辺のおオムラサキの生息状況等は、表 6.2-4 (P6.2-5) に示す。オオムラサキは調査地域内で 34 箇所 129 個体を現地確認した。いずれの確認地点も事業実施区域外の場所に位置し、計画道路等による直接改変が予定される場所でない。当該種の幼虫の主な食草であるエノキ及びエゾエノキの樹木は、調査地域内で少なくとも 58 箇所 82 株を現地確認した。このうち、計画道路等による直接改変が予定される場所(事業実施区域内)は、少なくとも 2 箇所 2 株であり、これらの食草の樹木は事業によって消滅する。

表 6.2-4 事業実施区域及びその周辺のおオムラサキの生息状況

注目すべき種の生息地		調査地域			事業実施区域		
		現況	工事实施後	改変率	現況	工事实施後	改変率
種	オオムラサキ	34 箇所	34 箇所	0%	0 箇所	-	-
		129 個体	129 個体	0%	0 個体	-	-
食草	エノキ	37 箇所	36 箇所	-3%	1 箇所	0 箇所	-100%
		53 株	52 株	-2%	1 株	0 株	-100%
	エゾエノキ	21 箇所	20 箇所	-5%	1 箇所	0 箇所	-100%
		29 株	28 株	-3%	1 株	0 株	-100%
	食草小計	58 箇所	56 箇所	-3%	2 箇所	0 箇所	-100%
		82 株	80 株	-2%	2 株	0 株	-100%

注：食草のエノキ類の株数は、現地調査により確認記録できたものみの数量となっている。

2) 食草が比較的多く生育すると思われる地区のオオムラサキの生息状況(堂沢川渡河部)

事業実施区域及びその周辺のオオムラサキの生息状況等のうち、計画道路が堂沢川を渡河する箇所食草のエノキ・エゾエノキが比較的多く生育すると思われる地区の情報を抽出して整理した。整理した結果を表 6.2-5 (P6.2-6) に示す。オオムラサキは調査地域内調査地区内で3箇所3個体を現地確認した。いずれの確認地点も事業実施区域外の場所に位置し、計画道路等による直接改変が予定される場所でない。当該種の幼虫の主な食草であるエノキ及びエゾエノキの樹木は、調査地域内調査地区内で少なくとも30箇所28株を現地確認した。このうち、計画道路等による直接改変が予定される場所(事業実施区域内)は、少なくとも2箇所2株であり、これらの食草の樹木は事業によって消滅する。

表 6.2-5 食草が比較的多く生育すると思われる地区のオオムラサキの生息状況

注目すべき種の生息地		調査地域			事業実施区域		
		現況	工事実施後	改変率	現況	工事実施後	改変率
種	オオムラサキ	3箇所	3箇所	0%	0箇所	-	-
		3個体	3個体	0%	0個体	-	-
食草	エノキ	24箇所	23箇所	-4%	1箇所	0箇所	-100%
		33株	32株	-3%	1株	0株	-100%
	エゾエノキ	6箇所	5箇所	-17%	1箇所	0箇所	-100%
		6株	5株	-17%	1株	0株	-100%
	食草小計	30箇所	28箇所	-7%	2箇所	0箇所	-100%
		39株	37株	-5%	2株	0株	-100%

注：食草のエノキ類の株数は、現地調査により確認記録できたもののみの数量となっている。

6.2.3 動物の主な生息基盤の変化の程度

動物の主な生息基盤の変化の程度は、表 6.2-6 ~~(P6.2-7)~~ に示す。事業実施に伴い計画道路等による直接改変の可能性がある立地は ~~60.1659.02~~ha で、調査地域全体の ~~85%~~程度である。直接改変の可能性がある立地（事業実施区域内）での主な生息基盤の占有面積は、「農耕地（~~44.9845.4~~ha）」が一番大きく、次いで「市街地・集落（~~9.899.24~~ha）、樹林地（~~3.783.16~~ha）」の順に大きい。河川の直接改変の可能性がある立地は約 1.5ha 程度であり、「河川（疎林・草地）」が 1.07ha で、「河川（開放水域）」が 0.44ha である。「河川（疎林・草地）」と「河川（開放水域）」の直接改変の可能性がある立地は ~~1ha 未満である。~~

表 6.2-6 動物の主な生息基盤の変化の程度

主な生息基盤	事業実施区域端から 250m 範囲			事業実施区域（計画道路等）		
	現況 (ha)	工事実施後 (ha)	改変率 (%)	現況 (ha)	工事実施後 (ha)	改変率 (%)
樹林地	64.49	60.71	-6	3.78	0	-100
農耕地	474.09	429.11	-9	44.98	0	-100
河川（疎林・草地）	34.12	33.05	-3	1.07	0	-100
河川（開放水域）	19.82	19.38	-2	0.44	0	-100
市街地・集落	173.24	163.35	-6	9.89	0	-100
計画道路等	0	60.16	-	0	60.16	-
合計	765.75	705.59	-8	60.16	0	-100

注 1：表中の数値は、現存植生図から事業実施区域端から 250m 範囲の植生を抽出し、整理した結果である。

~~注 1：現存植生図の作成範囲における各生息基盤の占有面積である。~~

注 2：事業実施区域は、計画道路及び供用後の法面や側道等を含む道路用地境界までの範囲である。

注 3：計画道路が橋梁形式の区間は橋脚設置位置が検討中であるため、全て橋梁形式の区間の占有地を便宜的に直接改変の立地として整理した。